

愛知岳連

発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 石川 富康
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◇ 4月16日(土) 愛知岳連定時総会(県スポーツ会館) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>

愛知岳連親睦スキー大会 ↳イトシロシヤロツトタウンスキー場↳



指導員集会で意見交換 指導員が率先して安全登山を普及

指導委員長 勝野 準生

本年度の指導員集会が1月11日は東三河地区で、18日には名古屋地区で開催されました。

参加指導員は少数にとどまったものの、今日の登山を巡る状況を踏まえて色々な角度から意見交換を行ない、次年度の指導員会活動に繋げていくことを確認しました。

まず指導員の活動について、指導員は指導してこそ指導員であり、そのためには指導員資格を取ってからの活動こそが問われること、又幅広く情報を得て活動することや指導員で集まり交流することの大切さが確認されました。とりわけ指導委員会の事業には、従来の講習会形式にこだわらず実践的な山行を取り入れたらどうか、指導員が楽しめ他山岳会との交流が出来るよう、創意工夫した企画が必要との意見も出されました。

次いでスポーツクライミング指導員に関して意見交換を行ないました。既に従来のア

ルバインククライミング指導員とは別にスポーツクライミング指導員制度ができており、団体対策だけでなくクライミングジムを中心にその愛好者が増えている現状から、指導委員会としてどのように取組んで行くかが論議されました。

スポーツクライミング愛好者の多くが、かならずしも岳連と関わりを持っていない点や年代構成が違う現状から、まずは岳連内でこの資格内容をアナウンスする必要性が確認されました。又、愛知にはスポーツクライミング指導員の検定ができる指導員の方が在籍しておられることもあり、指導員資格取得に向けた積極的な取り組みが求められています。

いずれにせよ、時代の流れによりその都度求められる指導員活動はありますが、明確な方針のもと指導員が安全登山の普及の先頭に立って行くことを最終集約して閉会しました。

第39回愛知岳連親睦スキー大会

回転競技で順位を競い合う

団体優勝は高体連Aチーム

第39回愛知岳連親睦スキー大会は、2月6日(日)イトシロシヤロケットタウンスキー場で開催され37人が参加した。今年は全国的な寒波で雪が多く、天候にも恵まれ絶好のコンディションになった。

前日から現地入りした運営スタッフは、打ち合わせや協賛店からの賞品仕分けの準備に当たった。

朝9時開会式が行われ、磯野競技委員長からルールや注意事項が述べられ、競技が始められた。

種目は、回転競技が2回行われその合計点で順位を競い個人優勝は犬山Aの坂井治夫選手(①22・53秒②21・65秒)だった。

選手の中にはスキーを始めると間もないという林理恵(犬山C)さん、最高齢の山岸勇夫(やまびこ)さんらが果敢に挑戦して、熱い声援を受けていた。

また、一回目を滑り終えるタイムを確認して二回目にも臨み、みんなタイムを短縮していた。

11時競技を終え、宿舎で閉会式が行われ、民宿「ささき」の名物カレーライスを食べた

あと成績発表があり、賞品は全選手に渡され、名前が呼ばれるたびに歓声が上がった。

最後に中平等議長が「みんな大変お疲れ様でした。みんな真剣に楽しくやられていたのを見て、私も嬉しくなりました。来年は40回目の大会を迎えます。賑やかにやりたいと思いますので、ぜひ参加して盛り上げてください」と挨拶して、大会を終了した。

成績は次のとおりです。

▼団体の部

優勝 高体連A (関谷、岩狭、松林)

2位 岡崎A (磯村、平林、市川)

3位 犬山A (磯山、坂井、)



競技を見守る選手たち

4位 伊賀井(安城こもれび(北川、間瀬、浅井))

5位 犬山B (馬場、稲熊、伊藤)

6位 高体連B (角野、小林、鈴木)

7位 やまびこ山想会A (松本、太田(広)、鈴木)

8位 岡崎B (山本、中島、松尾)

9位 犬山C (林理、林延、磯部)

10位 やまびこ山想会B (太田(登)、坪内、野坂)

▼個人の部

優勝 坂井治夫 (犬山A) ②

磯山登 (犬山A) ③ 岩狭雅満 (高体連A) ④ 関谷雅樹 (高体連A) ⑤ 平林克文 (岡崎A) ⑥

浅井博史 (こもれび) ⑦ 松林隆幸 (高体連A) ⑧ 伊藤正顕 (犬山B) ⑨ 磯村雅仁 (岡崎A) ⑩ 高橋優 (県岳連)

尚、協賛いただいた企業は次のとおりです。

・アルパインツアサービス・駅前アルプス・モンタニア・ステラアルピーナ・穂高・いば昇(敬称略)

スキー大会を顧みて

常任理事 関谷 雅樹

今年の1月は、地域によっては記録的な豪雪となったが、奥美濃でも例年を上回る降雪があり、スキー場からはこの状況になれるコース整備に人員が割かれるためボールの設定までは手が回らず、状況によっては競技の開催を中止

した方がよい、といわれたこともあって、実は開催自体、危ぶまれる状況にあった。

ところが、前日は雨がぱらつくなど、直前一週間は寒さが緩み、当日も晴天に恵まれ、無事大会を行うことができた。

雪質については、直前の暖かさで緩んだところ、前夜の冷え込みで雪質が締まり、この時期としては固めの雪質での大会となった。競技参加者については35名で、昨年度より10名ほど減少したが、当日仲間の応援に駆けつけ、昼食を共にした会員を加え、合計37名の参加となった。

今年度は、開会式において目玉商品が用意してある順位を発表したところ、参加者の方々に乗り気になって頂けたようであり、競技後の閉会式でも、精一杯の協力をしていたいただいた各協賛店の豪華な賞品に歓声が上がった。また、前泊された参加者も増え、「ささき」さんも満室状態で、前夜から賑やかに盛り上げた大会となった。大会に協力いただいた各協賛店並びに「ささき」さん、さらにスキー場関係者の方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

最後に今回、参加いただいた各団体に深く感謝を申し上げるとともに、次回、40回目を迎える伝統ある大会としても、より多くの会員の方々が参加していただけるように努力していきたいと考えている。

名古屋駅前の山とスキーの専門店

駅前アルプス

〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目11-27
(第2トヨタビル東館1F)

TEL 052-565-1417

安心して選べる三河地区
のプロショップ

ピクサーから
エクスパートまで



登山用品豊富!

JR刈谷駅前
穂高

〒448 刈谷市桜町1-13
TEL.0566(23)8611

定休日/火曜日
営業時間/10:00~20:00

愛知岳連雪山技術講習会・検定会

好天の下雪に親しみ学ぶ

「テントの中で技術論を語り合う」

快晴に恵まれた2月19日20日、愛知岳連雪山技術講習会・検定会並びに指導員研修が、白山山系・大日ヶ岳に於て実施された。

19日指導員研修が行われ、9時高鷲スノーパークに集合。



打ち合わせののちゴンドラに乗り、山頂駅から大日ヶ岳に登り、積雪2mの中で研修を行なった。

メニューは「雪山での歩行技術と確保技術」とし、約3時間、アンカーの構築やスタンディングアックスピレイ、弱層テストなど行ない、中腹でテントを設置した。丁度この頃に一部の受講生もやってきて募営する。

夜は、再度明日の講習の打ち合わせの確認をし、親睦を計った。

翌20日8時、山頂駅に36人が集合し開講式が行われた。

まず、岳連を代表して中平等議長が「早朝から講習会に参加していただき有り難うございます。今年は山に雪が多く雪山を存分に堪能できる反面、事故の方も心配です。そういった観点からも今日の講習会は重要です。充分



指導員研修・弱層テスト

に学んでいただき安全登山に努めてください」と挨拶。

つづいて勝野指導委員長から、スケジュールの説明や注意事項があり、講師の紹介がされて実技のため頂上へ向かった。

受講生は、初級・中級と希望したクラスに分けられ、初級は「雪山登山における装備と歩行技術の習得」をテーマに①装備のいでたち②歩行技術(滑落停止を含む)③ピールコン操作の基本。を頂上付近の斜面を使って行なった。また、雪洞を掘ってビークク方法を教わる。

中級は「雪山での確保技術の習得」①アンカー支点の作成で、支点の重要性、様々な支点の取り方、強度確認等をし②スタンディングアックス

指導員検定を終えて

岡崎山岳会

山本 哲也

先日、名古屋での筆記試験を終え、やっと肩の荷が降りたような気分でした。

勉強会の初回が七月から始まり、豊橋での勉強会に五回参加し、確保、救助、雪山の技術で四回、実技の講習と検定がありました。なにせ欠席が許されないので、情けないような話ですが、寝坊したり、期日を間違えたりしないか心配していました。

パリエーションや岩登りがしたくて山岳会に入り、自分でも教本を読んだり、会の先輩から教わったりしてきました。春先に例会で指導員養成講習の話聞き、まだ自分には早いのではないかと思ったのですが、先輩の勧めも(大変だから覚悟しておけよ、との言葉も)あり、受けてみることにしました。

実際、講習に参加してみても他の山岳会の方や講師の皆さんから、登山についてのいろんな話を聞きました。特に講師をされている方々は経験も豊富で、講習の内容以外の話

がとてもおもしろく、かつ参考になりました。特に泊りがけの講習では、毎回、夜は宴会になりますので、昼間の講師の顔とはちよっと違うところ。経験が聞けました。

救助技術はなかなか練習もできませんし、ロープワークは何度もやってみないと身に付きません。検定という緊張感のあるなかで、自分がどこまでできるのか思い知らされました。指導委員長の勝野さんからはさんざん怒られました。が、今となってはいい思い出です。登山のリーダーの判断や技術は、他のパーティーメンバーの命にも関わるのですから、これくらいの緊張感はあるってしかるべきなのかもしれません。

指導員の講習は終わりましたが、もつともつと技術と知識を向上させ、自信を持って後輩たちをパリエーションや岩登りの世界に引き込めるようがんばりたいと思います。

